

## 祝福された家族の逸話（後半）：預言者ヨハネ

説明： 預言者ヨハネの性格、使命、そして彼の家族であるイムラーン家による相互扶助について。  
より アーイシャ ステイスィー

掲載日時 03 Sep 2012 - 編集日時 10 Sep 2012

カテゴリ： [記事](#) > [イスラームの信条](#) > [諸預言者の物語](#)



イエス、マリア、ザカリアとその息子ヨハネは皆、ダビデの末裔であるイムラーン家という同じ名家の一員でした。神の言葉であるクルアーンによると、彼らは誠実で、神へ真に帰依して崇拝していたことが分かります。

“ またザカリーヤ（ザカリア）、ヤヒヤー（ヨハネ）、イーサー（イエス）... それぞれみな正義の徒であった。 ”（クルアーン6：85）

“ ...そしてわがしもべである堅固の人ダーウッド（ダビデ）を思え。本当にかれは、（主の）命令に服して讚美しつつ常に（主の御許に）帰った。 ”（クルアーン38：17）

“ かの女（マリア）は、主の御言葉とその啓典を実証する、敬虔な（しもべの）一人であった。 ”（クルアーン66：12）

キリスト教徒たちの間では、ヨハネは「洗礼者」として知られます。しかし、クルアーンと預言者ムハンマドの言行録は、どちらもヨハネを洗礼者として言及していません。ヨハネの使命とは、イスラエルの民に対して神との契約を思い起こさせるものだったのです。彼は他のすべての預言者たちと同じこと、つまり完全なる帰依をもって唯一なる神への崇拝を命じたのです。

### 奇跡の子

預言者ザカリアにとって、子を授かるすべての希望がなくなった老齢において、神は彼とその妻に奇跡の子を授けました。その男の子は、世界で初めてヨハネと名付けられました。神ご自身がその命名を行ったのです。

“ アッラーからヤヒヤーの吉報をあなたに授ける。その子はアッラーの御言葉の実証者となり、尊貴、純潔で正しい人々の中の預言者となろう。 ”（クルアーン3：39）

私たちはクルアーンから、預言者ヨハネが幼い時から英知を授かっていたことを知りま

す。また複数の典拠から、彼が外で動物たちと遊ぶのを好む、静かでおっとりした勉強好きな子だったことが分かっています<sup>1</sup>

。ヨハネは敬虔で知的な青年に育ちました。彼は荒野、あるいは砂漠の中で簡素な生活をし、神への礼拝と唱念に勤しんだと伝えられています。彼は周囲の人々だけでなく、全人類に対して思いやりと慈悲に溢れた心を持っていました。イスラーム学者たちは、ヨハネは神への畏敬の念、そして愛情によって涙し、その涙は彼の頬に跡が残るほどだったとしています。

## ヨハネとイエス

ヨハネは神によって不屈の精神と力が与えられており、自らの世俗的欲求を抑制することが出来ました。彼は人々に対し、トーラーの法に立ち返るよう不断の呼びかけをし、従兄弟であるイエスの使命を支持しました。ヨハネの使命の一部には、イエスの教えを信じ、支持することが含まれていました。

“...アッラーの御言葉の実証者となり...”（クルアーン3：39）

ヨハネは従兄弟であるイエスのことを「神の魂」として言及し、奇跡的創造としての預言者イエスの存在を強調したのです。

預言者ムハンマドにまつわる真正の言行録（アフマド、ティルミズィーなど）においては、預言者ヨハネとイエスがイスラエルの民を再び正道に導くという彼ら共通の使命について、協議をする逸話があります。預言者ムハンマドによると、預言者ヨハネはイスラエルの民を一同に集め、彼らが神の戒律に従うよう嘆願したとされます。それはつまり、唯一なる神以外には何者をも崇拝せず、礼拝と齋戒をし、喜捨を施し、神への唱念に時間を費やすというものです。

神は預言者ヨハネに対し、特別な祝福を授けました。

“かれの生誕の日、死去の日、復活の日に（再び）、かれの上に平安あれ。”

（クルアーン19：15）平安、安寧、安心、満足感、人間に対して与えられる最大の祝福です。それは、神によって与えられた導きに従うことの結果であることは明らかです。

クルアーンと預言者ムハンマドの真正の言行録は、ヨハネの死の詳細については言及していません。しかしながら、彼はトーラーにおいて啓示された神の法に毅然として従ったことから、虐待や迫害を受けており、それが死につながったことが分かっています。ヨハネの人生は葛藤と努力に満ちたものでしたが、彼は神の教え（神のみを崇拝すること）にしっかりと従い、その信条を貫いて死んだのです。

イムラーン家は人類にとって、暗闇を照らす明かりでした。彼らの献身は比類なきもので、彼らの相互扶助は私たちにとっての模範です。両親は子供たちの現世での喜びではなく、来世の行方に気をもみ、子供たちはそれぞれが神に命じられたよう両親や年長者に尽くし、敬意を示し、思いやりをもって接します。この祝福された家族は、真の献身をもって神を崇拝し、神の法を最優先したのです。神はこう述べます。

“だが信仰して善い行いに励む者には、かれは十分な報奨を与え、なおその恩恵を増して下される。だが軽んじて高慢な者には、かれは懲罰を科され、アッラーの外にはどんな守護も援助も見いだすことは出来ない。”（クルアーン4：173）

マリアは敬虔な女性で、イエスは神の言葉、そしてヨハネは高慢や不従順な者ではなく、ザカリアは主を讃えました。預言者ダビデの子孫である彼らは、祝福されたイムラーン家の

一員で、彼らは人の人生における模範的存在だったのです。彼らが努力したように私たちも努力し、彼らが信仰したように確信をもって信仰し、彼らが神に服従したように私たちも完全な服従をするのであれば、審判の日、私たちも神の寛大さによって誠実な者として数えられることでしょう。

---

Endnotes:

[1](#) イブン カスィール。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/1471>

Copyright © 2006-2011 [www.IslamReligion.com](http://www.IslamReligion.com). All rights reserved.